

会 議 録

会 議 の 名 称	令和4年度第2回行田市総合教育会議
開 催 日 時	令和4年11月15日(火) 開会：午後2時 閉会：午後3時30分
開 催 場 所	行田市産業文化会館管理棟2階 2A・2B会議室
出席者(委員) 氏 名	石井直彦市長、齋藤操教育長、鹿山高彦委員、 飯塚千十世委員、大澤恵子委員、大竹洋平委員
欠席者(委員) 氏 名	なし
事 務 局	教 育 部：小池教育部長、石崎教育部次長兼教育指導課長、 長島教育総務課長、岡部教育部副参事、 姉崎教育指導課主幹 総合政策部：渡邊総合政策部長、嶋田総合政策部次長兼秘書課長、 島田総合政策部次長兼企画政策課長、 横倉企画政策課主幹、嶋田企画政策課主査、 青柳企画政策課主任
会 議 内 容	議事 学力向上の取組みについて
会 議 資 料	<ul style="list-style-type: none"> ・ 会議次第 ・ 行田市総合教育会議構成員名簿 ・ 資料1：学力向上の取組について ・ 資料2：令和4年度 全国学力学習状況調査 小学校第6学年 算数の問題 ・ 資料3：うきしろスタンダード ・ 資料4：家庭学習のすすめ ・ 行田市総合教育会議設置要綱
そ の 他 必 要 事 項	傍聴者 1名

発 言 者	会議の経過（議題・発言内容・結論等）
司 会	<p>1 開会 2 市長あいさつ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・次第の「3 議事」に入る前に、会議の公開・非公開に関する取扱いについて説明させていただく。本日の会議では、個人情報を取り扱う予定がないことから、行田市総合教育会議設置要綱第6条に基づき、公開とさせていただく。また、会議録は、発言者名を明記の上、要点筆記で作成し、市政情報コーナー及び市ホームページにおいて、後日公開させていただく。 ・それでは、本日の「議事」に入る。要綱第4条第1項の規定により、会議の議長は市長が務めることとなっていることから、ここからは石井市長に進行をお願いする。
議 長	<p>3 議事</p> <ul style="list-style-type: none"> ・それでは、暫時、議長を務めさせていただく。 ・次第に基づき順次、進めさせていただく。 ・次第3「議事」の「学力向上の取組み」について、教育長に説明をお願いする。
教 育 長	<p style="text-align: center;">＜資料1中の「学力テストの結果」により説明＞</p>
事 務 局	<p>＜資料1中の「これまでの取組と成果」「県学調の分析結果から見える学力の課題」「今後、取り組むべきこと」及び資料2～4により説明＞</p>
議 長	<ul style="list-style-type: none"> ・事務局からの説明の中で、これまでの取組みに関して分からない点や疑問に思う点など、各委員から意見をいただきたい。
鹿山委員	<ul style="list-style-type: none"> ・資料3「うきしろスタンダード」に学校独自の取組みを加えて活用していることや、教員への授業力向上研修や学力向上支援教員による新人教員への指導の様子がよく分かった。 ・新人など若い教員を指導して教員の指導力が向上し、それが子どもたちの学力向上にどのように反映したか教えていただきたい。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・小中学校では様々なテストを実施しているが、単元テストなど、短いスパンのテストで、どれほど理解できているかを評価することができる。また、少し長いスパンでは、1月又は2月にテストを実施している学校が多い状況である。このテスト結

飯塚委員	<p>果からも、授業で学んだことが確かな学力として結び付いているか把握することができると考えている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学力向上のために様々な取組みを進めており、少しずつ成果が出ていて素晴らしいと感じた。学力向上のために授業力の向上も大切であるが、そのベースとなるのは学級経営が円滑に進んでいることだと思う。豊かで円滑な学級経営を行うため、児童・生徒と教員の信頼関係が保たれていることが重要であると思う。学級経営についての研修や指導については、どのように行っているか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・学級経営の充実と学力向上の相関関係は、非常に強いといわれている。つまり、学級に愛着がある子どもたちは、学力の伸びが高いといわれている。かつて、市費負担教職員制度を採用していたときは、市教育委員会主催で学級研修会を行っていた。現在は、指導主事が年2回実施している授業力向上研修に力を入れており、その研修では、授業力だけでなく学級経営についても指導主事が気づいたことを適宜助言している。この他、各学校では管理職等が授業を観察し、学級経営や授業について適宜指導・助言を行っている。若い教員の授業力や学級経営力を高めて、子どもと保護者からの信頼関係の構築に努めてまいりたいと考えている。
議長	<ul style="list-style-type: none"> ・授業力向上研修を年2回実施しているとのことだが、この研修がどの程度学力向上に寄与しているのか。
教育長	<ul style="list-style-type: none"> ・授業力向上研修については、今年度から年2回実施することとした。私は教員の授業力を向上させる一番良い方法は、学校現場に最も近くにいる管理職が授業を観察して、授業の質が高くなっているか経過を確認することだと考えている。その上で、不明な点があれば教育委員会の指導主事からアドバイスをもらうという体制を構築することが望ましいと考えている。困ったときは、管理職だけでなく学力向上支援教員や先輩教員に気軽に聞ける体制を築くこと、つまり、学校自身で教員を育てることが教員の授業力向上に役立ち、子どもたちの学力向上につながっていくのではないかと考えている。
議長	<ul style="list-style-type: none"> ・各学校が若い教員を育成するノウハウをしっかりと管理し、継承していくことが大切である。そのためには、校長や学力向上支援教員に対する聞き取り調査を行い、その結果をまとめて保存しておくと思う。これにより、翌年度以降に教員の入

<p>教育長</p>	<p>れ替わりや若い教員が新たに着任した場合でもそのノウハウが引き継がれていれば、すぐに効果が発揮されるのではないかと思う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指導に行く指導主事も完璧ではないので、スーパーバイザーによる指導主事向けの勉強会も開催している。この勉強会では「前年度はここまでできた。今年度はこれを目標にしたい」という目標を立てさせ、1年ごとに経過を観察し、進歩した点又は今後の課題について評価して、次の勉強会に向けての目標設定に生かすというようなサイクルを考えている。現在は、一歩目を踏み出したばかりであるので、貴重な意見として頂戴したい。
<p>飯塚委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教育委員会と各学校との連携はもちろん重要だが、各学校が若手教員から管理職までが一体となって、「チーム学校」として子どもたちに寄り添っていくことを期待している。
<p>大竹委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・説明のあった取組みの図書活動推進委員についてであるが、図書に触れる回数を増やすことは素敵なことだと思う。本日配布された全国学力学習状況調査の算数の問題でも分かるように、読解力が必要であり、常日頃から文字に触れることが大切であると思った。本を読むことで、相手のことを考える力や思いやる力、想像力が養われると思った。確認させていただくが、資料にあるブックトークとは何か。
<p>事務局</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ブックトークとは、図書活動推進教員が子どもたちの前で、環境、平和、動物などのテーマごとに本の紹介を行う取組である。子どもたちが「本を読みたい」と思う気持ちになってもらうための取組みとして実施している。
<p>大竹委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・この取組みは、市内全小学校で実施しているのか。
<p>事務局</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・各学校が図書活動推進教員に依頼して実施する場合や、逆に推進教員から学校に提案して実施している場合がある。 ・一方で、推進委員には、掲示物や図書室の整理を中心に依頼している学校もある。
<p>議長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・図書活動推進教員が説明するのも良い取組みだが、児童・生徒同士で読んだ本を1分程度でまとめて紹介するともっと効果を発揮するのではないかと思う。

事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・議長の提案は、ビブリオバトルに該当するものである。これは、対決方式で自分が読んだ本の魅力を伝えるもので、表現力の育成と読書の推進という2つの観点で非常に注目されている。本市では、特に行田中学校で熱心に取り組んでいる。
議長	<ul style="list-style-type: none"> ・そのような機会があるのは、大変喜ばしいことである。児童・生徒が読みたくなる本が増え、読書習慣が身に付けば、読解力や表現力の向上につながると思うので、ぜひ、良い取り組みを各学校に横展開していただきたい。
教育長	<ul style="list-style-type: none"> ・先程紹介したビブリオバトルは、市立図書館においても実施しているので、補足させていただく。
大澤委員	<ul style="list-style-type: none"> ・学力向上の取組みは多岐に渡っており、内容的にも充実しているという印象を受ける。一丸となって一生懸命子どもたちのために尽力していることが説明を聞いて理解できるとともに、行田の子どもたちは幸せであると思った。 ・最終的に、学力学習状況調査の結果から、これまでの取組みの効果検証を行っていくことは非常に重要であると考えている。実際に、各学校において、どの程度検証がされているのか。経年で分析していくことが学力向上に向けた手掛かりをつかむことにつながると思う。
教育長	<ul style="list-style-type: none"> ・各学校が自校の学力について、しっかり分析する必要があると考える。先日、各学校と面談を行い、学力向上の取組みについて聞き取りを行ったが、各学校で学校独自の課題と向き合った上で、PDCAサイクルに当てはめて何をすべきか説明を求めたところである。年度末には、各学校で学力テストを実施する予定であるが、その結果を再度分析し、PDCAサイクルに当てはめて具体的な取組みを検討するよう指示していきたい。
議長	<ul style="list-style-type: none"> ・本市の英語検定3級の合格者が全国平均並みであるとの説明があったが、それが資料1の8ページに記載されている数値なのか。
教育長	<ul style="list-style-type: none"> ・そのとおりである。全国平均と全く同じ数値に並んだという段階である。
議長	<ul style="list-style-type: none"> ・これからの子どもたちには英語が大切である。現在は北埼玉地区英語弁論大会が開催され、優秀な成績を収めた生徒は県の大会にも出場しているが、行田市の子どもたちのみを対象にした

<p>鹿山委員</p>	<p>大会があっても良いと思う。学校内でも、行田市全体での開催でもよいと思う。参考までに意見として述べさせていただく。</p> <ul style="list-style-type: none"> 資料1の18ページ以降は、今後取り組むべきことが記載されているが、家庭学習の推進は重要であると考えている。今後取り組むべきことについて、ご意見をいただきたい。
<p>事務局</p>	<ul style="list-style-type: none"> 学力学習状況調査の問題内容が大きく変わっており、教科書の内容を丸暗記しただけでは高得点を取ることができないという印象である。これまでも教科書改訂が行われているが、今後も内容が大きく変わっていく可能性がある。そのための準備が必要であると思うが、このことについてどのように考えているか。
<p>鹿山委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> 実際に本日配布された算数の問題を解く中で、かなり読解力が必要だということを理解した。裏返して考えてみると、自分の意見を表現できる力が必要であるということである。文章で解答させる問題の時に、その力が如実に表れると思う。また、全体的な問題の流れを通して考えてみると、ほとんどが論理的な思考を必要とする問題であり、最後の方の問題では、プログラミングによって図形がどのように変化していくかなど応用力が試されるものもある。他にも割合の問題もあった。日常の様々な場面で発生する問題に対して割合を使って解決する、つまり今まで学習してきたことを道具としてどのように日常に生かしていけるかといった視点で問われていると思った。 個人的な案だが、教員の中には小学校低学年の指導に長けている先生もいれば、高度で専門的な指導に長けている先生もおり、多彩である。市内でも距離が近い小学校と中学校がある

	<p>が、小学1年生から4年生までは小学校の校舎に通学し、小学5年生、6年生は中学校に通学する義務教育学校のような方式での授業を実施してみてもいいだろうか。そうすることで、小学校の教員は負担が軽減され、小学1年生から4年生までの発達段階に合わせて、きめ細かな指導ができ、小学5年生、6年生に対しては中学校の教員が専門性の高い指導を行うことができ、児童にとっては、教科担任制や中学校での生活についてイメージが沸くことにより、中1ギャップの解消が期待できると思う。実際に運用してみると、メリットやデメリットがあると思われ、検討する必要があるが提案させていただきたい。</p>
<p>教 育 長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・小中一貫の取組みとして、小学校高学年で教科担任制を徐々に取り入れていくことについて文部科学省が提唱しているので、積極的に導入していきたいと考えている。
<p>大澤委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学力学習状況調査の結果からも子どもたちの読解力が必要と言われているが、新聞を活用することも学力アップや受験対策に効果があると言われている。行田市では新聞を活用した授業を実施しているか。
<p>教 育 長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・いくつかの学校で実施している。例えば、忍小学校は既に実施している。今度、忍中学校でも新聞を活用した授業を実施することである。 ・学力を向上させていくためには、各学校で一貫して何が課題となっているのかを分析し、対策を考えていく必要がある。新聞の活用については、各学校に広く紹介していきたい。
<p>議 長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・産業文化会館管理棟の階段の壁に、各学校の特色をまとめたものが掲示されている。先日、各学校で学校公開が行われ、私も訪問した際、この掲示物を参考にさせてもらった。このような掲示物に、特色ある授業を行っていることを掲載するなどして良い取組みをぜひ横展開していただきたい。
<p>飯塚委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・今後、取り組むべきこととして、読書習慣の確立について様々な意見があったように、これからの社会を担う子どもたちに読書の大切さを伝えていくことが大切であると思う。しかしながら、情報化社会の中で、今の子どもたちは、スマートフォンから簡単に情報やデータを手に入れられる状況であることから、本を手取る機会が減っていると思う。そのため、自分で物事を考える機会も減ってきていると考えられる。

	<ul style="list-style-type: none"> ・学力学習状況調査の児童生徒質問紙調査からもスマートフォンでの動画視聴の時間が長いという結果が出ている。この状況は、子どもだけでなく大人にも当てはまることだと思う。大人たちが子どもたちに対して、単に動画視聴を制限するのではなく、スマートフォンの上手な活用方法を教えていくことが重要だと思う。 ・図書活動推進教員が読書に関して積極的に活動しているとの説明を聞き、今後も読書の楽しさを子どもたちに伝えてほしいと思った。読書により人生が豊かになり、読解力向上をはじめ、コミュニケーション力、想像力、語彙力などが身に付くなど、様々な効果があるので、ぜひ、読書の大切さを子どもたちに伝えてほしい。子どもたちは電子機器の扱いに長けているという印象があるので、市立図書館の電子書籍も有効に活用していただきたいと思う。
<p>事務局</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・読書の効果は無限大だと認識している。特に、想像力を養うための疑似体験ができ、例えば、行けない国にも行くことができる。子どもに読む本から受ける影響は、非常に大きいと考えている。教育委員会としても、校長会など様々な機会を通じて読書の大切さについて発信していきたい。
<p>大竹委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・私は、アクティブ・ラーニングが重要であると感じている。現在の家庭学習は、配布されたプリントに答えを記入するという形式であるが、今後はどのような形で実施すべきか感じたところである。アクティブ・ラーニングでは、自分の意見を伝えるための話し方や聞き方などが重要になると思われるため、教員もこの能力を高めるために、日頃から尽力されていると思う。しかしながら、今後はより一層ナビゲーターとしてもしっかり子どもたちの考えを導き出す話し方や聞き方が必要になり、子どもたちも自分の考えを話すだけでなく、相手の話を聞き入れる、受容する力も必要になってくるのではないかと思う。そう考えると、今後の家庭学習の望ましい形について考えていた。良い考えを持っていても消極的で発表できない子どもやそれを伝えることが難しい子どもに対するサポートも必要であると感じており、道徳教育の充実も必要だと思う。以前、私が読んだ本によると、非認知能力の高い人の方が社会で活躍していると書かれていた。行田市からもそのような人材が数多く輩出できると良いと思っている。 ・素朴な疑問であるが、学力学習状況調査のテスト終了後、各クラスで答え合わせなどは実施しているのか。

<p>教 育 長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・試験の間違い直しは行っているが、学力の定着度の検証という意味ではまだ十分であるとは言えないと考えている。 ・主体的・対話的な授業を展開していくことは新学習指導要領におけるキーワードの1つであるが、各学校で実施している授業の様子を見ると、理想とする姿を実現するためには更なる努力が必要であると感じている。そのため、各校の校長に対して教育委員会で実施する授業力向上研修を活用するなど、様々な機会を捉えて主体的・対話的で深い学びにつながる授業を実施するよう伝えていく。
<p>議 長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・充実した授業を実施することにより、学力は一定の水準まで向上すると思う。さらに、その上の段階まで学力が向上することを望んではいるが、そのためには復習する習慣を身に付けることが必要であり、家庭学習が本当に大切だと思う。家庭学習を行う際、ICT機器等を活用することにより、効果が発揮されるのではないかと考えている。また、私も学力学習状況調査の問題を解いてみたが、これを45分で解くのは難しいという印象を受けた。実際にテストを実施する時期の前に、過去の問題の傾向を簡単に解説すると良い結果につながるのではないかとと思う。
<p>大澤委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・近年、家庭学習の質の低下が指摘されている。この要因として、核家族化の他、ひとり親家庭や共働き家庭の増加など、家族形態の変化が背景にあり、大人が子どもに関わる時間が減少していることが上げられるのではないかとと思う。また、子育てに不安を抱える保護者も増えているのではないかとと思う。全ての教育の出発点は、家庭学習にあると考えている。行政だけでなく、まち全体で家庭学習の大切さを共有し、まち全体で親子の育ちを支え合っていく仕組みも必要である。そうすることにより、未来を切り拓く人づくりにつながるのではないかと考える。子どもを地域で育てていく意識を持ち、誰でも学ぶことができる環境を整備していただきたい。 ・また、学校や教育委員会において、子どもたちの学力向上に関して様々な形で研究を行い、実際に取り組んでいるが、しっかりとその状況が家庭に伝わっていることが大切であると感じている。したがって、保護者が学校に来て、PTA活動に参加して情報を得ることが望ましいと思われるが、保護者の出席率はどの程度であるか。
<p>事 務 局</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度までは、新型コロナウイルス感染症が流行している状況の中で保護者を一同に集めて会議を開催することが難しかった

	<p>た。今年度は、多少この状況に落ち着きがみられることから、中学校における進路PTAなど保護者向けに説明すべき重要事項等を伝える会議には、8割を超える保護者が出席していたとの報告を受けている。</p>
鹿山委員	<ul style="list-style-type: none"> ・学校に関して、保護者自身が通っていたときとずいぶん変わっていると思う。そのため、保護者を対象として学校を開き、子どもたちがどのような指導を受けて学んでいるかを伝える機会を設けるのも良いかと思う。その情報を家庭に持ち返った保護者が家庭学習に付き添ったときに、学校と同じ指導方法で教えることができるのではないかと思う。
議長	<ul style="list-style-type: none"> ・ただいまの意見は、実現できたら良いと思う。参考としていただきたい。 ・各委員からも意見があったとおり、私も道德教育が重要であると思っている。私はいつも朝散歩をするが、小・中学生が率先して挨拶している様子を見ると、道德教育が大変役立っていると感じる。委員の皆様も時間があれば児童・生徒の通学路に足を運んでいただき、挨拶する習慣を身に付けさせていただくとありがたい。
議長	<ul style="list-style-type: none"> ・これにて議事を終了する。 ・議長の職を解かせていただき、事務局に進行を返す。
	<p>6 閉会</p>